



# 上川の 冬の道 を守る



最初のテーマは、「上川の冬の道を守る」。旭川・紋別自動車道の上川管理ステーションを訪れ、旭川開発建設部道路整備保全課長補佐の宮崎さんから、道路の維持管理と除雪についての話を聞きました。また、道路状況を監視しながら必要な情報を提供する業務を行う監視室や、ステーションに配備されている除雪機械を見学しました。ずらりならんだ除雪機械は迫力があり、先生方も実際に運転席に座ってみてその大きさを体感しては子どものように驚き、そして楽しそうにしているのが印象的でした。宮崎さんが除雪機械の説明の際に使用した動画は、教材として使いたいという要望があり、後日NPOに提供しました。提供した動画の一部は、当局HPにも掲載されています。[こちら](#)をクリック→「3分でわかる除雪車の種類」をクリック)



上：管理ステーションのモニターなどの機器について説明する宮崎さん／右：除雪機械の前で記念撮影



# 上川の 未来の まちづくり

## 「日本初」の遠距離移設酒蔵 上川町



上川大雪酒造 緑丘蔵(画像提供:上川大雪酒造株式会社)

次のテーマは「上川の未来のまちづくり」。2016年、上川町に「日本初」の手法による酒蔵が誕生しました。その生みの親である上川大雪酒造 初代蔵元 塚原敏夫さんから、上川の未来のまちづくりについてお話しいただきました。

塚原さんは、札幌出身で小樽商科大学卒業後、野村證券、外資系金融機関などに勤務し、三國シェフと出会ったことをきっかけに上川町でレストランを経営するようになりました。上川町は層雲峡が有名で夏期にはたくさんの観光客が訪れレストランも賑わいますが、冬期は客足が大きく減ります。冬にもできる仕事がないかと目をつけたのが、万年雪を冠する大雪山系を源流とする水と上川地域の米を生かした日本酒づくりです。三重県の酒造会社を移設させるという日本初の手法で上川町に酒蔵を作りました。そこで作られた日本酒は札幌国税局新酒鑑評会で金賞を受賞するなどの高い評価を受け、今や上川町を代表する製品のひとつとなっています。

塚原さんが話してくれたのは上川町の未来の町づくり。確実なのは、人口が

# 上川の 未来の まちづくり



手振りを交えながら上川のまちづくりについて熱心に語る塚原さん。上川町に続いて、帯広市と函館市にも新しい酒蔵を誕生させています



今年12月開業予定のパン・チーズ工房。中の様子を一足早くに見学させていただきました

減少し過疎が進んでいること。一方、株価・為替・金利がどうなるか、環境、病気、戦争などの社会情勢やトレンドが将来どうなるのかは誰にも分かりません。目指すのは交流人口の増大。まち全体をホテルと見立て、上川町に来た人を、酒蔵、レストラン、ホテル、ガーデン、チーズ・パン工房などに回遊・滞在させることを構想し、関係者と連携しながら施設の整備、地域のブランド化を進めていること、前例のない取組にトライする「ファーストペンギン」になることで、各種メディアに取り上げてもらえたと話してくれました。また、昨年上川大雪酒造、小樽商科大学、上川町の三者が連携協定を締結して、上川町で育った子どもたちが地元で学び働き続けることができる環境の整備や、上川町のまちづくりの全面的な支援などに取り組む「コンソーシアム上川」を設立したことを教えてくれました。次々と語られる新しい取組や構想に、皆さんワクワクしながら熱心に聞き入っている様子でした。

この後、塚原さんに酒蔵、レストラン、ホテル、ガーデンなどをご案内いただきました。



# 架橋 九十年 旭橋

今年架橋90年を迎えた旭川の  
シンボル・旭橋(画像提供:えび  
すけ(株))

最後のテーマは「架橋90年旭橋」。「旭橋を語る会」の会長 海老子川(えびしがわ)さんから、今年架橋90年を迎えた旭橋について、実際の旭橋が見える会場でお話いただきました。

海老子川さんは、新潟県出身。北海学園大学卒業後、2003年に旭川の広告代理店に勤務し、その後「旭橋を語る会」に入会。現在は独立してマーケティングとまちづくりを行う会社を経営しながら、同会の活動も続けています。

始めに旭橋の構造について、定期的に補修工事を行いながら90年前の建設当時と変わらない姿を保っていること、ドイツから輸入した特殊な鋼材が使用されていること、寒暖の差による橋の伸縮を吸収する装置が取り付けられていることなどの解説がありました。

次に、旭川と旭橋の歴史について、昔は旭川までの道路がなかったので人々は石狩川をさかのぼってこの地にやってきたこと、1904(明治37年)に初代旭橋が完成したこと、当時の旭川は鉄道が開通し、また第七師団が設置されたこともあって活気があったこと、一方、牛朱別川は蛇行が激しくしばしば洪水を起こしていたため1930(昭和5)年に切替工事が始まったこと、前後して現在の旭橋の建設が始まり1932(昭和7)年に完成したこと、などのお話がありました。同年11月3日に行われた渡橋式では、三世代夫婦が渡り初めを行ったほか、3万人の市民が集まったそうです。また、実際に旭橋の建設に携わった人から、旭橋の鋼板を接合するのに使われたリベットは、現地で熱されたものを投げ上げ、受け取った職人が穴に差し込みハンマーで打ち込んだ、との話

# 旭橋 九十年 架橋



上:旭橋を背景にその構造や歴史について解説する海老子川さん

左:洪水が発生しやすい地形とその対策についてツアーに参加した石川開発監理部次長が説明



を直接聞いたとの話がありました。

その後、今年旭橋で行われた補修工事(旭川開発建設部発注)の様子を記録した動画(作成したのは海老子川さんの会社)を流しながら、今回の工事では旭橋90年の歴史の中で初めて床版の本格的な補修を行ったこと、当時の床版のコンクリートは現在のものよりもだいぶ低密度であり、バックルプレートが担っている水抜き役をコンクリートでも補強していた可能性があることの解説がありました。剥がした舗装の下からかつて旭川と旭橋を走っていた市電の枕木も見つかるなど、旭橋の歴史と建設当時の技術を振り返る上で貴重な工事だったとのことでした。旭橋の補修工事の記録動画を作成していて、工事を担う技術者たちに若い人が多かったのが印象的だったとも語ってくれました。

旭橋を深く知ることが、旭川の歴史だけでなく、当時の社会情勢や土木技術を知ることにつながり、また、これから旭川のまちづくりや土木技術の継承を考える上でも重要であるなど、いろんな気づきがあったのではと思います。

# 感想 参加者からの

◆除雪及び旭橋の歴史については、今後社会科教材としての活用時に参考になりました。また、上川の町の町作りについて、塚本様の視点を学ぶことにより、視野が広がりました。

◆上川管理ステーションでは、4000万円の除雪グレーダーに一同驚き、道路監視カメラの回転の速さに驚き、24時間我々の安全を守り道路を維持管理していることに感銘を受けました。

◆上川町の塚原さんのお話では、「人口」を増やすのではなく、「交流人口」を増やすという視点のまちづくりが興味深かったです。

◆海老子川さんの旭橋のご講演からは、旭川市民であるにも関わらず知らないこともたくさんあり、子どもたちに伝える価値のあるお話をたくさん伺うことができました。

◆塚原社長や海老子川さんのご活躍は、事実としては存じ上げていたにもかかわらず、どのような人がつながり合い、どのような着想で取り組んできたのかの背景までも知ることができました。

◆道路の維持管理システムを子どもたちに知らせたいという思いを強くすることができました。今後のみち学習の教材動画作成への意欲がいっそう高まりました。

◆「過去の歴史や技術」を保存・継承した上で「未来」を見据えた取り組みであり、改めて北海道・上川の魅力を再発見したよい学びとなりました。

◆旭橋や自衛隊は生まれたときからそこに「ある」ものでしたので、学校の社会科で学んだとは思いますが深く考えたことはありませんでした。先日の学びにより、教育の素材、地域おこしの素材として魅力的なものであったのだと改めて気づかされました。

◆今回のツアーで訪問した場所や出会った方々は、それぞれの立場や立ち位置で、真剣にまちづくりを考えておられる方ばかりでしたが、広大な大地の北海道の中では、ほんの点にしか過ぎないのかも知れません。

しかしながら、点と点が地理的につながり、時間軸(過去・現在・未来)でもつながり、点から線そして面に展開していくのだらうと思うとワクワク感はありません。その後押しをしているのが、ほっかいどう学なのだろうと、再認識いたしました。



**北海道遺産 旭橋 (旭川開発建設部HP)**

旭橋の構造、歴史、写真などについてご覧になれます。